

## IAUD Newsletter Vol.4 第15号 (2012年1月号) 目次

1. 新春特集:「今後のIAUDの役割と課題」岡本一雄議長に聞く……………1
2. 国内外UD動向……………7
3. IAUD 2012年2月の予定……………7

### 新春特集:岡本議長に聞く今後のIAUDの役割と課題



国際会議が開催される2012年が始まりました。現在、実行委員会を中心に着々と準備が進められています。

今年最初のNewsletterは、今後のIAUDの役割について、また今秋に開催される「第4回国際UD会議2012in福岡」への期待について、IAUD評議員会の岡本一雄議長に、小島文代理事長と西村澄夫副理事長/情報交流センター所長、川原久美子事務局長がお話を伺いました。

### 震災・災害時におけるUD

小島:2011年は3月の東日本大震災と原発事故、これが復旧していない中で、秋にはタイでの洪水など、転変地異が続いた1年でした。さらに経済では、円高・ドル/ユーロ安となり、会員企業や団体、個人の皆様も、色々な面で非常に厳しい1年でした。

そんな状況の中で、IAUDの役割を再度、考えていきたいと思えます。

具体的には、震災時におけるUD、例えば仮設住宅や移動手段の問題など、復興支援としてできることは何なのか。実際には、会員企業や個人の皆様もUDのノウハウを活用して、個別に復興支援をしていますが、IAUDとしてはどういった手助けができるでしょうか。



岡本:東日本大震災で一番思ったのは、通信手段がなかなか上手くいかず、最大の弱点となったこと。今の状況をいかにクリアにできるかということは、UDにダイレクトにつながるかどうかは別として、凄く大事だと思いました。

また、一戸一戸の家屋で、どれだけ震災に対する備えができているか。ハードとメンタリティの点で、日本人がどれだけ備えができているのかも考えていかななくてはいけない、と強く感じました。

大上段に構えた UD だけでなく、日常あるような UD にもっと目を向けなくてはいけない。そういう細かいことは目立たないかもしれないが、実際の生活には非常に大事だと思います。

例えば、高速道路の標識は外国人が理解するのは難しい。特に首都高速はさっぱり分からない。もし首都圏が震災になったら、大混乱になる気がします。身近な所から、少しずつやっていかななくてはいけないと思います。



小島:通信手段については、一般的なテレビからの情報は少し遅れて入ってきています。例えば、最初の一週間は食糧が無くて困ったという情報が一週間後に流れる。すると、大量の食糧の支援がくるが、その時には既に充足しており、現地ではもっと重要な問題が起きているというタイムラグがありました。即時情報はまだまだこれからかなと感じます。

岡本:会社にいると現地からの情報がダイレクトに来る。今、水やガソリン、食料など何が欲しいのか、救急隊員など情報源がはっきりしている所へは的確に送れてよかったが、一般の人たちへの提供は上手くいっていない。現地での仕分けだけでも大変だと聞いています。ですから、会社から支援するときは、販売店向け、地域向けと最初から細かく分けていました。

小島:また、封鎖された道路を一度通ると、その道は通行できるといったナビゲーションなど、全体の通信との絡み方、移動手段と通信といった問題もあります。

岡本:情報が正しく的確にあれば、いろいろなことが正しく判断できる。それが混乱し始めるとなにもできない。何かすると余分なことになってしまうことがよくあります。ベーシックだがそれが一番難しく、大事だと思います。そういったものも IAUD の研究テーマになると良いかもしれない。

西村:サインと情報といったことも、ピクトグラムなどが今、見直されています。これからは災害も含めたサインの研究も IAUD のテーマになると感じます。

岡本:今、世の中で一般的になっている音声カーナビゲーションの初代の開発を、苦労しながらやっていました。そのときの一つのテーマは、どの時点で、何メートル前からドライバーに案内するかでした。

もう一つは、どう表現するかです。例えば、「右に曲がりなさい」だと、ドライバーがその瞬間にハンドルを切ってしまい危ないので、「右方向です」と表現を柔らかくしました。

そのように、わかりにくい高速道路の標識などを、もっと論理的にきちんと表示ができると思います。

## UD の国際化



小島:最近では、高齢者や車いす利用者、子供連れなどの旅行企画が充実しており、空港やホテルでもそのような方々が旅する姿をよく見かけます。これは日本や北欧だけではなく、台湾や韓国などアジアの国でも見られる傾向です。そろそろグローバルな観点でUDを考えても良い時期と思うのですが、これについてお考えをお聞かせください。

岡本:最近、空港で車いす利用者は非常に多い。日本よりも海外で多く見られます。しかし、そういう方々のイミグレーションやセキュリティのチェックは大変そうです。優先してやっているが、基本的にはそういうことが考えられている空港ではない。

小島:高齢化社会なので、ある程度の年齢になっても海外に知見を高めたいという方もいらっしゃる。そういう方々が自由に移動できて楽しめる状況をお互いに作っていきたい。日本でも海外からの方を受け入れ、日本からも海外へも伺う、その自由さができればいい。

岡本:乗員の人たちは優先レーンがあるが、赤ちゃんを連れていたり車いす利用者への優先レーンがあってもいいかもしれない。

小島:空港での段差はなくなっており、車いすまではある程度自由に動けるのだが、まだ通勤時のレベルまでは改善していない。

通勤時に、盲導犬を連れてきた人や白い杖をついた方をよく見かけます。しかし、海外に向けてはまだそこまではなっていない。日本だけでなく、色々な国々の人たちと協力してやっていると発展性があるのでは。

岡本:今は日本の企業は日本人の目線だけで見ているが、違う目線での見方がこれからは必要。そういう面で、国際化は重要だと思います。

小島:例えば、韓国や中国の大学、協会などと国際会議を共同開催していくこともあるかなど。

岡本:国際会議はどうしても表面的になりがち。それだけでなく、研究部会など日常的な活動で、意見交換ができる場が必要ではないか。

韓国や台湾からは費用も安いので、もっとお互いに行き来できればいい。特に台湾は(UDの面で)ものすごく進んでいます。

川原:韓国もとても進んでいます。韓国の障害者団体が、日本の商品を欲しいと叫んでおり、政府がその要望に答えなければいけない状況です。特に、学会やデザイナー協会などのUDに向けての熱気が凄い。

小島:韓国、中国、台湾等の諸外国の方々や研究部会のメンバーとで具体的にテーマを絞って交流を開始することも、活動としてやっていきたい。

岡本:今の日本が失っている韓国や中国の若い人たちのような情熱がほしい。それが内部に刺激を与える。

小島:彼らはすごく前向きで、アグレッシブ。見習えるものもたくさんあります。

西村:国際化というとUD団体ばかりを考えていたが、それとは別に、これからは生活者も含めた学生などとの交流が大事だと思います。

岡本:もっと気楽にやれたらいい。UDなんだから。

## IAUDの法人化

小島:公益法人化は長年の課題として、引き継ぎました。昨年4月以降、社団ではなく財団で検討できる可能性が出てきており、法人化協会の指導のもと、定款の策定を進めてきています。これについてお話を伺いたいと思います。

岡本:IAUDの発足当時は、UDをやりたいという人たちの集まりでできました。それが段々、色々な人達が入ってきて体制も大きくなり、国際会議も頻繁に開催し、組織としてもっときちんとしていく必要が出てきています。そういう意味で、この公益法人化というのはいいいチャンス。組織体が膨張していく中で、定款などの取り決めをきちんとしていくというのは、組織としていいことです。



小島:外からの目線でみて、組織としてきちんとしているかどうか。オープンに情報を開示できるようになった方が良いと言うことですね。

岡本:そういう意味では、大変いい時期にこの法人化の動きが出てきたのではないかと。日本のいろいろな団体はどんどん、法人化している。法人化すると、理事が必ず出席しなくてはならなくなるなど、組織としてきちんとしてくるものです。

申請手続きは大変と聞いていますが、今はどんな状況ですか。



川原:現在、定款は最終段階に入っています。法務局には2度申請します。今年の3月末までにまずは一般財団の申請をし、6月位までに旧任意団体の決算を行って、すべてを移行したい。一般財団の後、6、8ヶ月の期間で公益財団への申請をするのが理想的です。公益財団になった所で次の年度末を迎えるというのを、デッドラインとしています。

小島:(IAUDは)実績がかなりあるから、公益法人化はできるであろうというご意見をいただいています。

川原:一番のポイントは、将来きちんと運営していくための資金を確保できるかどうかです。

小島:いずれにしても、IAUDの活動を通して一般の方々とコミュニケーションをとり、役立ち、結果として資金繰りができるのが理想。そのために、例えば検定・認定(登録)など皆様の役に立つ活動を考えていきたい。

## 今秋の国際会議に向けて

小島:最後に、今年10月に開催される「第4回国際UD会議2012in福岡」では、震災・災害、グローバル、持続可能社会を3本柱として展開したいと考えております。現在のプランですが、昨年度の議長のお言葉を踏まえ、規模として今回は前回の50%を目処に進めています。といっても、省庁等かなりの規模で支援していただけそうで、最終的には前回の3分の2程度の規模でやっていける目処がたっています。

先日、福岡の会場を下見してきました。メインホールは1000人収容できる程度ですが(前回は3000人収容)、もっと大きく見えます。

規模は小さくても、全体の充実感や熱気、満足感は来場者にきちんと感じていただきたい。そして、次回もまた参加したいという気持ちをどうやって醸成していくかがポイントになってきます。

そこで、これまでご出席された会議などで、これは良かった、または良くなかったものはありましたか。

岡本:国際会議や講演会では、立見席がでるくらいの熱気があるほうがいい。大きな会場ががらんとしているのはさみしいし、講演者もどこ見て話していいかわからない。熱気あふれる感じにしていきたいから、小規模にするのは大賛成。あと、車いす利用者の方には、見やすい場所に座れるよう配慮してもらいたい。

川原:前回は会場が大きすぎて、がらんとしてしまった。

岡本:思い込んで沢山集客しようとするとう無理がある。集客だけでなく、最初の計画が大切。8割が満たされるくらいのサイズにするといい。

小島:つまり、最初のシチュエーション設定が大切ということですね。前は、展示会に来ていた地元の方を大ホールまで誘導できませんでした。  
企業からの来場者だけでなく、地元の方にも講演を聴いていただけるかがカギ。UD はとても一般的なことで、特別なことではない。何かおもしろいもの、興味をもってもらえるような、しかけをやっていく必要がある。

岡本:福岡独特の何かをやっていくの？

川原:県からは、メインホールでの県民向けのものを増やして欲しいとの要望があります。

小島:前は展示会だけが地元と共催だったが、今回は講演会についても、地元の大学や団体と共催にして行こうという働きかけをしています。そうすれば、地元の動員数も期待できる。

岡本:海外では、販売会等でいつも最後に抽選会などを行う。最後までいてもらうためにね。

小島:前はそれをしなかったため、子ども UD コンテストも少し寂しかったです。来た方に、その場で参加賞をお渡しするようなことを考えなくては。

岡本:例えば、地元の方の講演も早い時間ではなく、一番最後に持ってくる。そういった仕掛けが必要。

小島:確かに数々の仕掛けが必要です。

また、企業間のコラボレーションも考えた展示会をやっていきたい。例えば、住宅と車などのコラボが出来れば、まさにユニヴァーサルになる。これだけいろいろな業界が集まっている団体は IAUD しかない。ぜひその特徴を生かしたものをやれたらいいなと思っています。

岡本:昨年 12 月に開催された「東京モーターショー2011」で、日野自動車はなかなか面白い展示ができたが、あれはお金が掛かっていない。

お金は掛られないと決まったら、すごく皆で知恵をしぼった。例えば、天井は鉄骨のつまらないものだったが、そこに旗を置くだけで、だいぶ印象が変わった。そうやって、皆で知恵を出して行って、いい展示会になればいい。

展示会をスポンサーに任せるだけでなく、導線も含めてここまで考えているんだといったものがほしい。

小島:先程のコラボレーションがあると、導線もすっきりする。今までにないことをやりたいと思います。本日はありがとうございました。(了)

## 国内外 UD 動向

### ■「AD シンポジウム 2012」開催のご案内

アクセシブルデザイン推進協議会(ADC)は、障害者団体、産業界等が互いに推進している災害時における施策や取り組みについて情報を共有し、専門的な情報やノウハウを継続的に集約・蓄積することを目的に、「ADシンポジウム2012 ～東日本大震災を経験して、今後望まれるアクセシブルデザイン・福祉用具～」を2月13日(月)13時30分から、独立行政法人住宅金融支援機構本店1階「すまい・るホール」(東京都文京区後楽 1-4-10)で開催します。

詳細は以下のサイトをご覧ください(参加受付は延長しています)

<http://www.techno-aids.or.jp/oshirase12010601.pdf>

### ■ 第 4 回 JIDA プロダクトデザインセミナー開催のご案内

キッズデザイン協議会のアドバイザーである日本インダストリアルデザイナー協会は『「子ども目線のモノづくり」 -産む・育てる・守る- 子供を知ってデザインする』をテーマに、「第 4 回 JIDA プロダクトデザインセミナー」を2月10日(金)と2月17日(金)の2日間に分けて、DICビル17階大会議室(東京都中央区日本橋 3-7-20)で開催します。

詳細のプログラムとお申込みは下記のサイトをご参照ください。

<http://www.jida.or.jp/std/seminar4/index.html>

---

## IAUD 2012年2月の予定

- 2日(木) 15時～ メディアのUDPJ定例会(大日本印刷)
- 9日(木) 13時～ 余暇のUDPJ定例会(IAUDサロン)
- 16日(木)14時～ 衣のUDPJ定例会(IAUDサロン)
- 17日(金)13時～ 標準化研究WG定例会(IAUDサロン)
- 28日(火)15時～ 実行委員会会合(IAUDサロン)

メンバー募集中の研究部会・委員会はこちらにリンクしてください↓

<http://www.iaud.net/news-f/archives/1106/21-114818.php>

---

## 訃報

山本卓真会長が1月17日に逝去いたしましたので、ここに謹んでお知らせいたします。

次号は2月発行予定

特集:余暇のUDPJ活動報告 国立障害者リハビリテーションセンター研究所での講演会 他  
無断転載禁止

IAUD 情報交流センター (IAUD サロン) :  
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階  
電話 : 03-5541-5846 FAX : 03-5541-5847 e-mail : [salon@iaud.net](mailto:salon@iaud.net)